



春野中だより

〈教育理念〉 自他共愛
〈学校教育目標〉・明るく・豊かに・たくましく

令和6年度 第10号
令和7年2月3日(月)発行
さいたま市立春野中学校
〒337-0002 見沼区春野 2-2-1
TEL 682-3951 FAX 682-3952

「見える事実・見えない解釈 ～解釈に振り回されない～」

校長 永谷 和俊

2月になりました。3年生は私立高校の入試が始まり、進路が決まり始めています。また、これから県公立高校の入試が控えています。3年生の教室では、進路が確定して安心している生徒もいれば、これからの入試に緊張している生徒もいます。最後まで良い雰囲気を受験を乗り越え、気持ちよく卒業へ向かっていけることを願っております。また、1年生は1月31日に東京校外学習を行い、2年生は2月2日から4日にかけて舘岩自然の教室があります。素敵な思い出となると同時に、多くの学びが得られることを期待しております。

◇ ————— ◇

最近、「頭がいい人はなぜ、方眼ノートを使うのか？」という本を職員から紹介され、思考の整理に方眼ノートを使うことにはまっています。これまで考えや思いを整理し、分かりやすく伝えることに悩んでいましたが、このノートで「見える化」することで、考えや伝えたいことが整理され、少しずつ上手く伝えられるようになってきました。ノートには「覚える」「考える」「伝える」という機能がありますが、これまでの私のノートを振り返ると、書きなぐったメモにすぎず、ノートとしての機能を果たしていなかったことに気づかされました。この本を参考に、整理されたノートを書き続けることで、頭の中もすっきり整理され、考えることが楽しくなってきました。「覚える」「考える」「伝える」場面で、良いノートの取り方を知り、使いこなせるようになることは、一生の武器になると思います。関心がある方は、ぜひ、活用していただければと思います。まずは、私たちが使いこなせるように、本と方眼ノートを買って、見せ合いながら勉強中です。

この思考を整理するための方眼ノートの使い方ですが、基本構造として見出しのスペースを取り、「①事実」「②解釈」「③行動」を書くスペースに分けて頭の整理を記述していきます。例えば、「雨が降りそうなので傘を持っていく」という行動を例にすると、「①事実：空が曇ってきた」「②解釈：雨が降りそうだ」「③行動：傘を持っていこう」という事実→解釈→行動の流れになります。身近なことなどで練習をしていきますが、「事実」と「解釈」の区別が難しいことに気づきます。例えば、「私はいじめられた」という訴えがあったとします。さらに聞くと「無視された」とのことです。ここで終わると「無視された」が事実のように感じますが、さらに詳しく聞くと「声をかけたけど、反応してくれなかった」とのことです。これが事実になると思います。「①事実：声をかけたけど、反応してくれなかった」「②解釈：無視をされた」と考えられます。

本当に無視されたのかは、相手にも確認をしないとわかりません。実は聞こえていなかったのかもしれないし、何か理由があって反応しなかったのかもしれない。そして本当に無視していたのかもしれない。つまり、この時点では「無視された」は、「解釈」です。相手にも「事実」と「解釈」を確認しなければ全体像はわかりません。「事実」が一致しないこともあるでしょうし、お互いにその時の「解釈」を理解することも必要かもしれません。自分が正しい行動をしていると思っていることも、自分の解釈にすぎず、相手はそう解釈していないこともあると思います。「解釈」が一致しないから、トラブルが起きるのだと感じています。

「解釈」を「事実」と捉えて行動すると、誤解が生じて失敗することが多々あります。最近では、「本当の事実」はよく分からないのに、「たぶんこうだろう」という解釈で一斉に非難されたり、脅されたりする出来事が頻繁に起こっています。各出来事の内容とは別に、「解釈」によって世論が動かされることに不安を感じています。

私たちは、様々な方面から情報を集めて正しい事実を知ること大切ですが、解釈に振り回されないことも重要だと感じています。「見える事実・見えない解釈 ～解釈に振り回されない～」を心掛けていきたいと思っています。